



文化祭で販売するオリジナル商品をPRする生徒ら

# 考案商品食べてみて

青雲 高  
あす文化祭

## 被災地支援へ販売

花巻市石鳥谷町の県立花北青雲高校（小原和雄校長、生徒490人）は、26日に開く文化祭「青雲祭」で、今年も生徒が授業の中で考案したオリジナル商品を限定販売し、売上金を被災地に寄付する。

販売するのはビジネス情報科が「青雲アソート」「青雲どらやき」「たいふくん」、総合生活科がベ

ジイカフライ」「大宝いか揚げまんじゅう」「みそ入りパウンドケーキ」食べてみそ」の計6品。

ビジネス情報科は、同市星が丘のフティッシュユタナカ（田中勝代表）、同市石鳥谷町の菓匠丸文（中村弘樹代表）とのコラボ商品。青雲どらやきの焼き印は同校情報工学科の生徒が真ちゅうを加工して製作した。

総合生活科は地元食材、被災地交流を続けている大槌町の海産物をそれぞれ使用し、生徒自らが仕上げた。食べてみそは1年D組が手掛け、東和町の佐々長味噌と県産サツマイモ、カボチャを使い、甘さを抑えた白みその風味が特徴だ。

また、大宝いか揚げまんじゅうは、大槌産のイカとたくさんの素材をぎゅっと詰め込んだことから宝の名称を付けた。堀合通奈さん、漆澤なつみさん（ともに3年）は「私たちの活動を通して大槌町のことを少しでも知ってもらいたい」と期待する。

学習発表、作品展示、模擬店などが行われる。公開時間は午前10時～午後3時。

文化祭では情報工学科がバドミントン練習用に開発したシャトルノックマシンを表演するほか、